

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科 理事長 松岡純弘
事業所名	グループホーム たいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺町950-7
自己評価作成日	平成27年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が家庭的な環境で共に生活をする中、一人ひとりが思いや希望・喜怒哀楽の感情を自由に出していける環境作りを心がけ、共に支え合う関係を大切にしています。山・海に田んぼ等自然に触れ五感で四季を楽しめるように外出の支援をしています。利用者の方と家族の絆が強く深まるように家族と情報の交換・相談・共有・協力して一人ひとりの暮らしの支援をしています。地域や他事業所の行事に参加して地域とのつながりを大切にしています。利用者の方々の心身状況の変化を見極めて重度化しないよう生活の場での暮らしが継続できるよう、迅速に医療従事者へ連絡をして早期治療・対応をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園の中にあり、山も海も近く自然を感じられる。開設13年目を経て、当時からの職員や勤務年数の長い職員が多く職員間の連携は取れている。利用者が共同生活をしていく中で、当たり前自分の思いや感情を自由に出せる環境づくりに努めていることで、事業所の雰囲気明るく、利用者も笑顔が多く、利用者同士や職員との会話も多く、和やかに過ごすことができている。居室でくつろいだり、リビングでテレビを見たり、体操のビデオを再生してからだを動かしたりと一人ひとりが自由に生活している。利用者の心身の状況を判断しながら、できることを継続してもらえるように見守っている。母体が医療法人であり、体調の変化は早期に対応できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム たいさんじ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)  
氏名 白石かおり

評価完了日 平成27年 10月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) グループホームの理念を玄関フロアに掲示し、地域の中で元気に穏やかに暮らせるよう、日々実践をしている。	
			(外部評価) 開設時より勤務している職員が多く、事業所の理念は定着している。新しい職員には、理念について説明して、自分たちのケアを見せることで理解につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 公民館で毎月開催される高齢者協会の交流会や地区の運動会・お祭りに参加をしている。グループホーム前の歩道の清掃をしている。	
			(外部評価) 公民館2階で、和気地区の高齢者協会の集まりが月に2回あり、歩ける方限定ではあるが参加している。年に1回、グループホームたいさんじ祭りを実施しており、地域の方や小学生も参加している。地域の運動会に参加したり、秋祭りには神輿が事業所に来たり、少しずつ地域の方との交流も広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 母体の病院で、介護や医療についての研修を定期的に行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者・市介護保険課・地域包括支援センター・公民館館長・駐在所所長・民生委員の出席があり、暮らしぶりや取り組みの状況・気付きを報告し、意見をもらいサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 利用者も参加できるように、午後2時から開催している。市介護保険課、地域包括支援センター、民生委員に加えて、公民館長や駐在所所長も参加してくれるようになっている。駐在所から反射板の提供があったり、公民館長には、防災等について地域で考えていかなくてはならないと認識してもらえる機会となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市介護保険課や地域包括支援センターへ連絡し相談をしている。	
			(外部評価) 市介護保険課や地域包括支援センターとの関係は良好で、気軽に連絡や相談ができています。空室ができれば、速やかに連絡し情報提供するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関や戸口の施錠はせず自由に入出入りしている。利用者の生命保護の為にやむを得ない場合に限り家族へ説明をし同意を得て、抑圧感が軽減するように行っている。毎月経過観察をし、拘束解除に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関や勝手口は施錠しておらず、自由に入出入りできるようになっており、一人で出ることできるが、道路まで出てしまうと危険なため、敷地内で戻れるように職員と一緒に付き添っている。臥床時に転倒の危険の認識がなく動いてしまう利用者に対して、家族の同意を得てベッド柵をしているが、経過観察しながら症状が落ち着いてくれば解除したいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について研修を行い、日常のケア内容を振り返り職員間で話し合っ虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度の必要な方は手続きをし活用している。家族からの相談時は話し合い活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書等は、家族の不安や疑問を確認しながら分かりやすく丁寧に時間をかけて説明している。事業所の出来る事出来ない事、家族に協力をお願いする事等を明確にして理解と納得を図っている。退居時も同様に対応をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や食事会、個々の面会時に意見や要望を聞いている。理事長出席のミーティングや運営推進会議で報告をし、運営に活かしている。	
			(外部評価) 年1回「父の日、母の日」という家族と一緒に外食をする家族会を行っており、その際に意見や要望があれば聞いている。普段の面会や電話連絡でも気軽に話してもらえよう努めている。法人の理事長や事務長、管理者で月1回ミーティングを実施し、運営に反映できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 毎月行うミーティング等での職員の意見や提案を、理事長に 報告をして運営に反映させている。	
			(外部評価) 1階と2階それぞれで月1回ミーティングを実施し、意見や 提案を聞くようにしている。運営に関する意見や要望はあまり 出ないが、備品関係の故障や買い替えの要望はあり、その 都度対応している。出産や新築等職員の生活面の変化にも対 応し、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 理事長は、度々ホームに来て個々の職員と話をして心身と勤 務の状況を把握し、働きやすい勤務のローテーションにして いる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を提供し、個々の職員が希望する研修を受講出来 るように勤務の調整をし受講料は事業所が負担をしている。 ホーム内と母体の病院で定期的に研修を開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域の介護事業所と運営推進会議やイベント・地域の親睦会 で交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 病室やサービスを利用中の事業所を訪問し、可能な限り本人 と話をして表情や行動から思いの把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族介護の状況や思いを聞き、今後どうしてい きたいか家族の意向を確認して、事業所の方針等を説明し関係 作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人と家族にとってどのようなサービスが必要か、相談内容 から検討して必要な支援やサービスを提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 料理・洗濯・掃除・買物等、得意な事やりたい事できる事を 一緒にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族へ本人の生活状況を報告して協力をお願いし、面会や外 出等一緒に過ごす時間が増え本人との絆が深まるようにして いる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 本人が馴染み親しんだ海岸や店・地域の方が集まる所に出かけ て知人との関係が続くようにしている。面会や外出の声掛け をし、気軽にホームに来て心地よく過ごせるよう環境を整え ている。 (外部評価) 利用者が入所前に住んでいた場所やよく行っていた海岸やお 店などに出かけ、馴染みの場所や知人との関係が継続でき るよう努めている。利用者によっては、家族や親せきがよく 面会に来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係性を把握してトラブルにならないように座席を考えている。一緒に体操をする・歌を歌う・お茶をする等でお互いに関わって過ごすようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人と家族の了解を得て、転居先へ面会に行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何をしたいか本人に聞いている。思いの表現が難しい方は、表情や行動を観察し職員間で話し合い意向の把握に努めている。  (外部評価) どのように暮らしていきたいかなどの思いや意向を利用者本人に聞きながら、できる限り希望に添えるように対応している。表現が困難な利用者に対しては、表情や行動を観察して、気づいたことは職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話を聞き入居前に利用していた事業所から情報を聞いて、これまでの暮らし方や生活歴の把握をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の心身状態変化を見て職員間で話し合い、その時の利用者の力の把握に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族に生活するうえでの希望や困っている事を聞いてミーティングを行い、希望と現状にそった介護計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、担当者が本人や家族から希望や意向を聞いたり、ミーティング等で普段の集団での日常生活の様子も振り返りながら、現状に即した計画を作成し、それを基に管理者や他の職員にも意見を聞き、必要な内容を付け加え、計画作成者が完成させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の小さな変化や発言・行動等の情報を個別の生活記録や申し送りノートへ記入し、職員間で共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況変化に応じて、通院の付添いや送迎を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々の生活で近所のスーパーや公園・公民館を利用している。定期的に民生委員や派出所を訪問している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人家族と話し合って入居以前からのかかりつけ医の受診を 継続したり、希望する新たな病院を受診できるように支援し ている。	
			(外部評価) 基本的には、これまで受診していたかかりつけ医を利用して いるが、入所時に近くの病院を希望した場合は近隣の協力病 院を受診している。緊急の場合は家族に対応してもらうが、 県外など難しい場合は職員が対応し、家族に経過を連絡して いる。1階、2階とも看護師が勤務しており、かかりつけ医 等との連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の心身状況を把握して小さな変化や気付いた事を看護師 へ報告し、看護師から主治医やかかりつけ医へ上申して適切 な処置や受診が出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、利用者の詳しい情報を提供して連絡を取り合っ ている。病室を見舞い看護師や相談員に状況を確認して退院へ 向けての相談をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の過ごし方について意向を聞き事業所で出来 る事を説明している。本人の状態変化時は、その都度家族の 意向を確認して家族・看護師・医師・管理者で話し合って方 針を決め、スタッフ全員に周知して支援をしている。	
			(外部評価) 看取り指針を作成しているが、今のところ看取りは行って いない。入居時に終末期の方針について本人や家族には説明し ている。かかりつけ医や看護師と連携して対応し、食事が摂 れなくなった場合やターミナルに近づいた時点で、家族の同 意を得て入院としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師から指導を受けて日々のケアで実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間を含めた災害を想定した避難訓練を行っている。近隣との消防署と協力体制を築き、災害時に備えての飲料水等の準備をしている。  (外部評価) 日中に、カーテンを閉めて夜間を想定した防災訓練を実施している。体調の悪い利用者は参加せず、職員が代わりに体験している。秋祭りで神輿が来た際に、地域の方から地区の防災担当者に事業所の現状を伝えてもらうことができ、今後の協力体制について話し合いをする予定となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりが分かりやすい言葉かけや対応を心掛けているが、場面によっては職員の声が大きくなったりキツイ口調になり利用者を不快な気持ちにさせてしまう時がある。ミーティングで言葉かけや対応について話し合っている。  (外部評価) 一人ひとりが思いや希望、喜怒哀楽の感情を自由に表現できるような環境作りや声掛けを心がけているが、危険な行動等を止めようとする時に、つい声が大きくなったり、荒くなる職員がいる。その都度、管理者等から説明を行い、改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人と話をしている事やしたい事を聞いている。適切な言葉が選べなかったり言葉自体の表出が難しい方は、表情や行動から推測している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく一人ひとりの過ごしやすいうように支援しているが、希望に沿えなかったり職員の都合になっている時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 小まめに髭剃りや爪切りをし、着たい服を着たい時に着て、女性は化粧をして楽しんでいる。本人や家族と相談して新しい洋服や化粧品の購入等をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりが出来る調理や盛り付け・後片づけ等を一緒に行っている。本人の好物やその時に食べたい物を用意している。	
			(外部評価) 一人ひとりの好みや希望を把握し、メニューに反映している。献立に苦手なものがあれば、別のものを用意するよう配慮している。利用者は職員と一緒に調理をしたり、後片付けを雑談をしながら行っている。同じフロアで食事やおやつを準備をしており、調理をする包丁とまな板の音や料理の匂いが感じられて、五感を刺激している。ホットプレートで作る料理やおやつも職員と一緒に楽しみながら作ることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事と水分の摂取量を記録して過不足の確認をしている。一人ひとりが摂取できる時間や場所を把握し、落ち着いて食事ができる環境を作っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きとうがいをを行い、週2回義歯の洗浄を行っている。一人ひとりのその時の心身状況に合わせて口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの心身状況や行動に沿った下着や紙パンツ等を使用している。トイレで排泄ができるよう排泄のパターンを把握して声掛け介助をしている。	
			(外部評価) 排泄パターンをチェックして、声掛けしてトイレに誘導するようにしている。体調が悪い場合にはベッドで臥位で対応するが、基本はトイレで座って排泄できるように支援している。食物繊維の多い食事や水分量のチェックを行い、便秘への対応につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便通に良い乳製品や食物繊維を取り入れている。毎日体操をして出来る限り身体を動かしている。便秘薬の必要時は、一人ひとりの身体の状況に応じて医師が処方し服用をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日中に入浴をしている。風呂好きの方は隔日が入っている。入浴に対する思いが強い方は、時間帯や一日に入る回数を決めずに対応をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望を尊重し、できる限り入りたい時に入浴してもらおうよう支援している。入りたがらない利用者に対しては、様子を見ながらタイミングを見て声掛けを行うようにしていくことで、少しずつ馴染んできて入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりが落ち着ける席や自室で休んでいる。眠る時の照明やカーテン・戸口の開け閉め等、意向に沿って対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬の目的や用法をファイルにし理解に努めている。状態の変化時は看護師・医師に報告して指示を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意であったり役割としている家事を一緒にしている。懐かしい歌や時代劇・高校野球等を見て聴いて楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホームの近くを散歩したり海岸やお寺に行っている。地域の催しや他事業所のイベントに参加している。家族と一緒に食事やお墓参り・親戚宅へ出かけている。  (外部評価) 馴染みの海岸やお店に行ったり、天気の良い日には事業所まわりの農道を散歩したりしている。家族とお墓参りや外食に行っている利用者もいる。近隣の他事業所の夏祭りや地域の運動会などにも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金はホームで預かり、預り金出納帳を作成して毎月コピーを家族に送って内容を報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が電話を希望する時は、代わって電話をかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や小物を飾り、生活感や季節感を取り入れている。室温や採光遮光を調整して心地良く過ごせるようにしている。  (外部評価) リビングにはソファが置いてあり、利用者は思い思いにゆったりと過ごしている。季節の花などを飾ったり、利用者が作成した作品を飾り季節が感じられるようにしている。また、室温を快適に調整するなど心地良く過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人ひとりの関係性と落ちつく場所を把握し、リビングや食卓・玄関ポーチで思い思いに過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人家族と相談して思い出の品や仏壇・使いやすい家具を置き、花を活けたり植木鉢の世話をしている。物がある事で混乱したり安全に過ごせない方は必要な家具や持ち物の配置のみにしている。  (外部評価) ベッド、エアコン、チェスト、洗面台、床暖房が設置され、口腔ケアもそれぞれの居室でできている。使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでいる利用者も多く、家族の写真を飾ったり、お気に入りの服を壁にレイアウトしたり、鉢植えや季節の花も自由に飾るなど居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレには見やすく分かりやすい高さに名札を付けている。床の濡れや汚れがないよう、歩いたり車椅子の自走で安全に動けるよう家具の配置をしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科 理事長 松岡純弘
事業所名	グループホーム たいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺町950-7
自己評価作成日	平成27年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が家庭的な環境で共に生活をする中、一人ひとりが思いや希望・喜怒哀楽の感情を自由に出していける環境作りを心がけ、共に支え合う関係を大切にしています。山・海に田んぼ等自然に触れ五感で四季を楽しめるように外出の支援をしています。利用者の方と家族の絆が強く深まるように家族と情報の交換・相談・共有・協力して一人ひとりの暮らしの支援をしています。地域や他事業所の行事に参加して地域とのつながりを大切にしています。利用者の方々の心身の状況の変化を見極めて重度化しないよう生活の場での暮らしが継続できるよう、迅速に医療従事者へ連絡をして早期治療・対応をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園の中にあり、山も海も近く自然を感じられる。開設13年目を経て、当時からの職員や勤務年数の長い職員が多く職員間の連携は取れている。利用者が共同生活をしていく中で、当たり前自分の思いや感情を自由に出せる環境づくりに努めていることで、事業所の雰囲気明るく、利用者も笑顔が多く、利用者同士や職員との会話も多く、和やかに過ごすことができている。居室でくつろいだり、リビングでテレビを見たり、体操のビデオを再生してからだを動かしたりと一人ひとりが自由に生活している。利用者の心身の状況を判断しながら、できることを継続してもらえるように見守っている。母体が医療法人であり、体調の変化は早期に対応できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームたいさんじ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 平岡 明美

評価完了日 平成27年 10月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) グループホームの理念を玄関フロアに掲示し、地域の中で元気に穏やかに暮らせるよう、日々実践をしている。</p> <p>(外部評価) 開設時より勤務している職員が多く、事業所の理念は定着している。新しい職員には、理念について説明して、自分たちのケアを見せることで理解につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の運動会・お祭りに参加をしている。</p> <p>(外部評価) 公民館2階で、和気地区の高齢者協会の集まりが月に2回あり、歩ける方限定ではあるが参加している。年に1回、グループホームたいさんじ祭りを実施しており、地域の方や小学生も参加している。地域の運動会に参加したり、秋祭りには神輿が事業所に来たり、少しずつ地域の方との交流も広がってきている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 母体の病院で、介護や医療についての研修を定期的に行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者・市介護保険課・地域包括支援センター・公民館館長・駐在所所長・民生委員の出席があり、暮らしぶりや取り組みの状況・気付きを報告し、意見をもらいサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 利用者も参加できるように、午後2時から開催している。市介護保険課、地域包括支援センター、民生委員に加えて、公民館長や駐在所所長も参加してくれるようになっている。駐在所から反射板の提供があったり、公民館長には、防災等について地域で考えていかなくてはならないと認識してもらえる機会となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市介護保険課や地域包括支援センターへ連絡し相談をしている。	
			(外部評価) 市介護保険課や地域包括支援センターとの関係は良好で、気軽に連絡や相談ができています。空室ができれば、速やかに連絡し情報提供するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関や戸口の施錠はせず自由に入出入りしている。利用者の生命保護の為にやむを得ない場合に限り家族へ説明をし同意を得て、抑圧感が軽減するように行っている。毎月経過観察をし、拘束解除に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関や勝手口は施錠しておらず、自由に入出入りできるようになっており、一人で出ることできるが、道路まで出してしまうと危険なため、敷地内で戻れるように職員と一緒に付き添っている。臥床時に転倒の危険の認識がなく動いてしまう利用者に対して、家族の同意を得てベッド柵をしているが、経過観察しながら症状が落ち着いてくれば解除したいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について研修を行い、日常のケア内容を振り返り職員間で話し合っって虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度の必要な方は手続きをし活用している。家族からの相談時は話し合い活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書等は、家族の不安や疑問を確認しながら分かりやすく丁寧に時間をかけて説明している。事業所の出来る事出来ない事、家族に協力をお願いする事等を明確にして理解と納得を図っている。退居時も同様に対応をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や食事会、個々の面会時に意見や要望を聞いている。理事長出席のミーティングや運営推進会議で報告をし、運営に活かしている。	
			(外部評価) 年1回「父の日、母の日」という家族と一緒に外食をする家族会を行っており、その際に意見や要望があれば聞いている。普段の面会や電話連絡でも気軽に話してもらえよう努めている。法人の理事長や事務長、管理者で月1回ミーティングを実施し、運営に反映できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 毎月行うミーティング等での職員の意見や提案を、理事長に 報告をして運営に反映させている。	
			(外部評価) 1階と2階それぞれで月1回ミーティングを実施し、意見や 提案を聞くようにしている。運営に関する意見や要望はあまり 出ないが、備品関係の故障や買い替えの要望はあり、その 都度対応している。出産や新築等職員の生活面の変化にも対 応し、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 理事長は、度々ホームに来て個々の職員と話をして心身と勤 務の状況を把握し、働きやすい勤務のローテーションにして いる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を提供し、個々の職員が希望する研修を受講出来 るように勤務の調整をし受講料は事業所が負担をしている。 ホーム内と母体の病院で定期的に研修を開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域の介護事業所と運営推進会議やイベント・地域の親睦会 で交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 病室やサービスを利用中の事業所を訪問し、可能な限り本人 と話をして表情や行動から思いの把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族介護の状況や思いを聞き、今後どうしてい きたいか家族の意向を確認して、事業所の方針等を説明し関係 作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人と家族にとってどのようなサービスが必要か、相談内容 から検討して必要な支援やサービスを提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 調理・洗濯・掃除等、得意な事を一緒にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族へ本人の生活状況を報告して協力をお願いし、面会や外 出等一緒に過ごす時間が増え本人との絆が深まるようにして いる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 親類や馴染みの方と関わりが続くように面会や外出の声掛け をし、ホームへ気軽に来て心地よく過ごせるよう環境を整え ている。  (外部評価) 利用者が入所前に住んでいた場所やよく行っていた海岸やお 店などに出かけ、馴染みの場所や知人との関係が継続でき るよう努めている。利用者によっては、家族や親せきがよく 面会に来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係性を把握してトラブルにならないように座席を変えている。一緒に歌を歌いお茶を飲んだり等でお互いに関わって過ごすようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人と家族の了解を得て、移転先へ面会に行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何をしたいか本人に聞いている。思いの表現が難しい方は、表情や行動を観察し職員間で話し合い意向の把握に努めている。  (外部評価) どのように暮らしていきたいかなどの思いや意向を利用者本人に聞きながら、できる限り希望に添えるように対応している。表現が困難な利用者に対しては、表情や行動を観察して、気づいたことは職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話を聞き入居前に利用していた事業所から情報を聞いて、これまでの暮らし方や生活歴の把握をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の心身状態変化を見て職員間で話し合い、今どのような支援が必要か把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族に生活するうえでの希望や困っている事を聞いてミーティングを行い、希望と現状にそった介護計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、担当者が本人や家族から希望や意向を聞いたり、ミーティング等で普段の集団での日常生活の様子も振り返りながら、現状に即した計画を作成し、それを基に管理者や他の職員にも意見を聞き、必要な内容を付け加え、計画作成者が完成させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の小さな変化や発言・行動等の情報を個別の生活記録や申し送りノートへ記入し、職員間で共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況変化に応じて、通院の付添いや送迎を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々の生活で近所のスーパーや公園を利用している。定期的には民生委員や公民館を訪問している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人家族と話し合っ入居以前からのかかりつけ医の受診を 継続したり、希望する新たな病院を受診できるように支援し ている。	
			(外部評価) 基本的には、これまで受診していたかかりつけ医を利用して いるが、入所時に近くの病院を希望した場合は近隣の協力病 院を受診している。緊急の場合は家族に対応してもらいが、 県外など難しい場合は職員が対応し、家族に経過を連絡して いる。1階、2階とも看護師が勤務しており、かかりつけ医 等との連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の心身状況を把握して小さな変化や気付いた事を看護師 へ報告し、看護師から主治医やかかりつけ医へ上申して適切 な処置や受診が出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、利用者の詳しい情報を提供して連絡を取り合っ ている。病室を見舞い看護師や相談員に状況を確認して退院へ 向けての相談をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の過ごし方について意向を聞き事業所で出来 る事を説明している。本人の状態変化時は、その都度家族の 意向を確認して家族・看護師・医師・管理者で話し合っ方 針を決め、スタッフ全員に周知して支援をしている。	
			(外部評価) 看取り指針を作成しているが、今のところ看取りは行って いない。入居時に終末期の方針について本人や家族には説明 している。かかりつけ医や看護師と連携して対応し、食事が摂 れなくなった場合やターミナルに近づいた時点で、家族の同 意を得て入院としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師から指導を受けて日々のケアで実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間を含めた災害を想定した避難訓練を行っている。近隣との消防署と協力体制を築き、災害時に備えての飲料水等の準備をしている。  (外部評価) 日中に、カーテンを閉めて夜間を想定した防災訓練を実施している。体調の悪い利用者は参加せず、職員が代わりに体験している。秋祭りで神輿が来た際に、地域の方から地区の防災担当者に事業所の現状を伝えてもらうことができ、今後の協力体制について話し合いをする予定となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりが分かりやすい言葉かけや対応を心掛けているが、場面によっては職員の声が大きくなったりキツイ口調になり利用者を不快な気持ちにさせてしまう時がある。ミーティングで言葉かけや対応について話し合っている。  (外部評価) 一人ひとりが思いや希望、喜怒哀楽の感情を自由に表現できるような環境作りや声掛けを心がけているが、危険な行動等を止めようとする時に、つい声が大きくなったり、荒くなる職員がいる。その都度、管理者等から説明を行い、改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人と話をしている事やしたい事を聞いている。適切な言葉が選べなかったり言葉自体の表出が難しい方は、表情や行動から推測している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく一人ひとりの過ごしやすいうように支援しているが、希望に沿えなかったり職員の都合になっている時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 小まめに髭剃りや爪切りをし、女性は化粧をして楽しんでいる。二か月に一回の訪問理美容で、好みの髪型にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好きな物を献立に入れている。調理等本人が出来る事を一緒にし、食卓を皆で囲み食事を楽しんでいる。	
			(外部評価) 一人ひとりの好みや希望を把握し、メニューに反映している。献立に苦手なものがあれば、別のものを用意するよう配慮している。利用者は職員と一緒に調理をしたり、後片付けを雑談をしながら行っている。同じフロアで食事やおやつを準備をしており、調理をする包丁とまな板の音や料理の匂いが感じられて、五感を刺激している。ホットプレートで作る料理やおやつも職員と一緒に楽しみながら作ることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事と水分の摂取量を記録して過不足の確認をしている。一人ひとりが摂取できる時間や場所を把握し、摂取量の少ない方には本人が食べられる物や食べたい物を提供する等対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯と義歯磨き、うがいを行っている。できない方は自室の洗面所で、一緒に歯磨きやうがいを行っている。義歯は毎日洗浄液につけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの心身状況や行動に沿った下着や紙パンツ等を使用している。トイレで排泄ができるよう排泄のパターンを把握して声掛け介助をしている。	
			(外部評価) 排泄パターンをチェックして、声掛けしてトイレに誘導するようにしている。体調が悪い場合にはベッドで臥位で対応するが、基本はトイレで座って排泄できるように支援している。食物繊維の多い食事や水分量のチェックを行い、便秘への対応につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や食物繊維を取り入れている。テレビを見ながら体操をして出来る限り体を動かしている。便秘薬の必要時は、一人ひとりの身体状況に応じて医師が処方した薬を服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や体調に合わせて、昼間の入浴をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望を尊重し、できる限り入りたい時に入浴してもらおうよう支援している。入りたがらない利用者に対しては、様子を見ながらタイミングを見て声掛けを行うようにしていくことで、少しずつ馴染んできて入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりが落ち着ける席や自室で休んでいる。眠る時の照明やカーテン・戸口の開け閉め等、意向に沿って対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬の目的や用法をファイルにし理解に努めている。状態の変化時は看護師・医師に報告して指示を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の出来る事や歌、体操を一緒に行っている。スポーツや時代劇に歌等が好きな方は、テレビやビデオを見て楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の体調に合わせて、花見や外出に行っている。家族と一緒に出かけ、自宅で過ごされている。	
			(外部評価) 馴染みの海岸やお店に行ったり、天気の良い日には事業所まわりの農道を散歩したりしている。家族とお墓参りや外食に行っている利用者もいる。近隣の他事業所の夏祭りや地域の運動会などにも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金はホームで預かり、預り金出納帳を作成して毎月コピーを家族に送って内容を報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が電話を希望する時は、代わって電話をかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとにリビングの壁に飾り付けをし、季節感を取り入れている。室温や湿度の調整と換気をし心地よく過ごせるようにしている。  (外部評価) リビングにはソファが置いてあり、利用者は思い思いにゆったりと過ごしている。季節の花などを飾ったり、利用者が作成した作品を飾り季節が感じられるようにしている。また、室温を快適に調整するなど心地良く過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人ひとりの関係性と落ち着く場所を把握し、リビングや食卓・自室で思い思いに過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人家族と相談して、使い慣れた物や思い出の品を置き、落ち着いて過ごせるようにしている。物がある事で混乱する方には、必要な家具のみ配置している。  (外部評価) ベッド、エアコン、チェスト、洗面台、床暖房が設置され、口腔ケアもそれぞれの居室でできている。使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでいる利用者も多く、家族の写真を飾ったり、お気に入りの服を壁にレイアウトしたり、鉢植えや季節の花も自由に飾るなど居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレには見やすく分かりやすい高さに名札を付けている。自室は本人が動きやすく、物が取りやすいように家具の配置をしている。	